

I 問題と目的

園ではテレビ番組の話を耳にしたり、ごっこ遊びが見られたりする。テレビ番組の影響を受けている子どもは男女問わず大勢いる。子どもとテレビの関係を調べてみると、3歳には決まった番組を習慣的にみるようになり、大部分の幼児がテレビを生活の中に定着させているということが分かった。また、テレビの歴史を調べていく中で、1963年に誕生した『鉄腕アトム』のキャラクター・マーク（図柄）は子どもたちの使うあらゆる商品につけられて飛ぶように売れたことがわかった。その結果アニメマンガは利益を生み出す商売であるということが民放局やスポンサーに強く認識された。子ども向け番組は関連商品を売ることによって成立している分野であることがわかった。

では実際に子ども自身はどのようなところに魅力を感じているのだろうか。このことを問題とし、幼児が好きなテレビ番組はなにか、また幼児自身はそのテレビ番組のどのようなところが好きであると認識しているかを調査し、検討する。

II インタビュー調査

1. 調査対象児

愛知県内のA園に通う年中児22名及び年長児14名、B園に通う年中児19名及び年長児16名

2. 調査日

2014年11月11日、2014年11月25日

3. 調査の方法

インタビューは個別に行う。質問内容は、好きなテレビ番組とそのテレビの中で好きなキャラクター、回、セリフや言葉とそれぞれの理由についてである。インタビューは対象児を別室に呼び出すか、対象児の視界に遊びの様子が入らないようにし行った。

III 結果

1. 好きなテレビ番組

幼児が好きと回答したテレビ番組をみていく。

(1) 全体

「妖怪ウォッチ」が圧倒的な人気であることが分かった。「妖怪ウォッチ」は2014年1月8日に放送が開始され、ゲームをはじめとするアイテムなどが人気となった。また、2014年の「新語・流行語大賞」ベストテンに選ばれたことから、このブームの影響が結果に反映されたと思われる。

(2) 学年男女別

年中男児には「ポケットモンスター」「仮面ライダードライブ」「トッキュウジャー」、年中女児には「プリキュア」「アイカツ!」と回答した幼児が多い。男児は戦闘シーンがありカッコよいもの、女児はかわいい女の子が登場人物として多く出てくるものを回答している。そのため、年中児は対象の性別がはっきりと分かるようなものに魅力を感じると考える。

また、「ドラえもん」「トムとジェリー」という回答も年中児の特徴としてみられた。喧嘩やいじめが行われているが、本当はお互いのことを考えていて、仲がいいという点で、トムとジェリー、のび太とジャイアンの関係が類似している。このように少し複雑ながら、心なごむ関係にも魅力を感じているのではないかと。

年長男児には「仮面ライダードライブ」が、年長女児には「妖怪ウォッチ」が多いことが分かる。

2. 好きな理由

次に、幼児が好きな理由として回答したものを筆者の視点で6つに分類した。全体として「キャラクター」が多く、容姿や声、個性などその物語の魅力を感じる大事な部分になると言えよう。また、年中女児を見てみると、「セリフや技など特定のシーンに出てくるもの」「話の流れに関するもの」といった番組の中身に関するものに比べ、「キャラクター」「音楽やダンス」が多く感じる。具体例みると、「プリキュア」や「アイカツ!」のいわゆる女の子向け番組に関する回答が多くあった。

IV 考察

1. 妖怪ウォッチ

(1) 設定や全体に関する考察

妖怪ウォッチが好きな理由として、妖怪が出てくることに関する回答が4つあった。妖怪はケータがいつも遊ぶ友達や家族にとりつくことが多い。とりつかれるとその人とは全くの別人のような行動をすることから、意外性、認識や予想のずれがもたらす面白さがあると思う。

そして「戦うところが好き。」という回答があった。ケータは、とりついている妖怪と戦い勝つことで、その妖怪と友達になることができる。妖怪の弱点を探し奮闘する場面では見る者が自分なりの予想をできたり、意表を突かれたりといった良さがあるのではないかと考えた。

(2) 話の内容の考察

一旦ゴメンが出てくる話が好きという回答があった。一旦ゴメンはケータにとりつき、いたずらをし、「ゴメンゴメン、一旦ゴメン」と謝る。怒っている相手に対して悪気のない様子で謝るという矛盾の面白さを感じた。

また、じがじいさんが出てくる話が好きという回答があった。じがじいさんは、自画自賛をする妖怪だが、ケータは古典妖怪を召喚して勝つ。じがじいさんと古典妖怪がお互いに様々なことをはりあう姿が必死なので、少し変わった世界観が感じられるという面白さがあると思った。

ブルー隊長が出てくる話に関する回答が2つあり、その1つは最後のシーンがおもしろかったというものであった。ブルー隊長に取りつかれた妖怪が特訓をやめられなくなり、最終的にはその妖怪の顔つきとはかけはなれた筋肉隆々の体となる。その違和感に意表を突かれる面白さがあると感じた。

このように、妖怪ウォッチの話には他にも、通常のアニメに見られるようなコミカルさやテンポよく進むストーリー、話の内容自体が笑いを誘うようなものに留まらず、日常生活では経験できないような奇抜な世界観や、矛盾を含んだストーリー展開の面白さが盛り込まれているのであろう。

また、面白いという回答以外のものも得られた。花さか爺の話で最後、夜空に花を咲かせるところが好きというものである。この綺麗なシーンがハッピーエンドを迎えた雰囲気を出しているのだと思った。

(3) キャラクターの考察

妖怪ウォッチの中でも人気のあるキャラクターはジバニャンである。顔がかわいい、ジバニャンの必殺技であるひやくれつ肉球が強そうが好きという回答を得た。ジバニャンは車のトラックに向けて日々パンチの練習をしているので、強く見えるのではないかと。また、ジバニャンの口癖「ニャン」が好きだという回答が3つあった。ジバニャンの個性やかわいさがこの語尾によって強調されているのだと感じる。さらに、ジバニャンの大好物であるチョコ棒に関する回答もある。ジバニャンが幸せそう、おもしろいというものであった。ジバニャンはチョコ棒を発見するとすぐに食べてしまうほど好きである。ジバニャンのかわいさや強さ、好きな食べ物に対する行動などが人気の理由であるようだ。

そして、コマさんが好きという回答が7つあった。コマさんは田舎から出てきた妖怪で方言を使い、訛っている。「コマさん初登場の回でコマさんがソフトクリームを『ソフトクレーザら』』と言いつつ間違えたのが面白かった。」という回答があった。コマさんは都

会に慣れていないことから、観ているものが様々な訂正を入れたくなるような言動をする。そんな言動や見た目に対し、今回のインタビューでは、「かわいい」「おもしろい」という回答が得られた。コマさんが話の中に盛り込む明らかな間違いや勘違いは作り物でなく本心からであるという面白さがある。

さらに、ロボニャンの技、しゅらコマの声、フユニャンのマント、ダイヤニャンの戦っている姿に対して、かっこいいところが好きだという回答があり、声や見た目、戦っている様子にかっこいいと感じていることがわかった。

そして、好きなキャラクターについての回答の中にホノボーノがやさしくて好きというものがあつた。妖怪ウォッチに出てくる妖怪はしゃべるものが多いため、みているものは妖怪ごとの性格を感じとりやすいと思う。また、ウィスパーの飛ぶところが好き、ヨコドリの足が速くて面白い、河童の泳ぎがすごいところが好き、赤鬼、影オロチ、オロチ、キュウビ、どんどろに関して、強いから好きだという回答があつた。このように、妖怪にはそれぞれ個性がある。妖怪の性格や特徴が多様という点も多くの子どもに好かれる理由なのではないか。

(4) 音楽・その他に関する考察

妖怪の召喚のシーンに関する回答が複数あつた。ケータは友達になった妖怪を召喚できるようになる。召喚の際は、音楽や歌と共にその妖怪が登場するがこの音楽は妖怪の族によって異なる。族の特徴を掴んだ雰囲気とその妖怪が画面に映るところが良い。また、「イサマシ！メザマシ！ラッシャイマシー！」のように、言葉の最後が同じになっており、口ずさむと楽しい歌詞となっていると感じた。また、「ジバニャンのメダルをセットしたシーンが好き。レジェンド妖怪で、なんか強そうだから。」という回答があつた。レジェンド妖怪の召喚ソングは他のものよりも長いという点や、妖怪が堂々と立つ姿から、少し特別な召喚ソングとなっていると感じる。

また、オープニングテーマが好きだという回答を得た。この曲の構成としてはゲラゲラポーの繰り返し、ラップ、演歌、ゲラゲラポーと男声の2声部となる。テレビ番組のオープニングという短い時間にも関わらず、次々と曲調が変わっていくところにテンポの良さが見られる。ゲラゲラポーでは、すぐに真似をして踊ることが出来るような振り付けがついている。そして、初期のエンディングテーマであるようかい体操第一が好きという回答もあつた。かわいらしくわかりやすい歌詞やふりつけにより、キャラクターが体操する映像に合わせて踊ることのできるものとなっていた。

また、「園でみんなが言っているから。」という年長女兒の回答があった。友達の話題についていくために好きになるという場合もあるのではないかと感じた。

2. 妖怪ウォッチの面白さ

このように、多くの種類の面白さがあるが、それはキャラクターの個性によってもたらされるものが多いと感じた。

3. ポケットモンスター

幼児のなかで、映画が好きと回答したものが2人いた。そのうちの1人は「ピカチュウが石になった時にサトシが泣いて感動したから。」と言っていた。サトシとピカチュウはテレビアニメ放送当初から唯一変わる事のないメンバーである。今回のインタビューでも、ピカチュウが好きと回答する幼児は3人いたことから、人気のあるキャラクターと分かる。そんな2人の一生の分かれを暗示させる悲しい展開に心動かされたのであろう。

また、「メガリザードン X とメガカメックスが戦った話が好き。バトルで勝ったのが良かった。」「イベルタルとゼルネアスが戦うところが好き。強いから。」という回答が得られた。メガリザードン X とメガカメックスというのは、リザードンやカメックスがメガシンカしたものである。メガシンカは2014年現在放送されている「ポケットモンスターXY」で新たに登場した形態で、メガシンカ後は、そのポケモンが強くなる。イベルタルとゼルネアスはポケットモンスターXY で登場する伝説のポケモンである。いずれも特別な強いポケモンに関する回答で、その戦闘シーンに魅力的を感じるようだ。また、「ルチャブルが好き。フライングプレスがかっこいいから。」「バシャーモが好き。強いから。」といった回答があった。このことから、特別なポケモンでなくても戦闘シーンでみせる強さやかっこよさが人気であることが分かる。

そして、フォッコやディアンシーの見た目がかわいくて好きという回答があった。両方とも女兒の回答であったことから、女の子にとってかわいらしい見た目のポケモンは、親しみやすく、好きになるきっかけやポケモンを視聴するうえで好みの部分となっているのであろう。好きなキャラクターとしては他にもクルミルやホワイトキュレム、サザンドラ、そして、「飛ぶポケモン」が好きと回答した幼児がいた。「かわいい」といった容姿にまつわる特徴や「かっこいい」といった容姿の特徴や技の様子、「強い」といった技の様子や機能に関する特徴、「空を飛ぶ」といった機能に関する特徴など、それぞれの良い所がある。これらの特徴は子どもにとって憧れの対象

になるのではないかと。

4. 仮面ライダードライブ

仮面ライダー26作目で2014年10月5日から放送されている。

「戦うのが好き。」という戦闘シーン全体に関わる回答があった。変身し敵と戦うところは特撮ならではの迫力が出るシーンであると思う。戦闘シーンでは、人間が変身し強くなるという特別な状態や、かっこよく戦う姿に子どもたちは魅力を感じているのではないかと。そして、仮面ライダーが勝つシーンに関する回答があったことから、戦闘シーンの中でも特に勝つ瞬間にキャラクターと同じ達成感を味わうことが出来るという良さがあると感じた。

キャラクターについての回答では、主人公の泊進之介が好きというものが多く、その理由はイケメンだから、仮面ライダーだからというものであった。仮面ライダーの俳優は、親世代にも人気出るような容姿であるといわれている。普段の姿や戦う姿がかっこいいと感じているのであろう。また、変身する時の顔や声が好きという回答があり、変身シーンもかっこいい個所であるとわかった。

また、「アイアンロイミュードもかっこいい。」「悪者が好き。ドライブと戦うから。」という回答があった。ロイミュードは今回登場する悪役である。悪役は戦闘シーンで主役と同じくらい目立つ。このことから悪役がかっこよく戦う様子を感じ、その存在自体にも子どもは魅力を感じていることが分かった。そのために悪役もかっこよくある必要が感じられる。

5. プリキュア

2004年以降放送され、現在放送されている『ハピネスチャージプリキュア』は11作目となる。

今回のインタビューで、映画の中のキュアラブリーがスーパーハピネスラブリーになるところが好きという回答があった。「スーパーハピネスラブリー」とはパワーアップフォーム(プリキュアの強化状態)である。このパワーアップフォームはみんなの力を合わせることによって現れる。そしてキュアラブリーはスーパーハピネスラブリーなり、敵を倒すことが可能となる。このように、みんなで力を合わせ、敵を倒すところに魅力を感じるのではないかと考えた。また、テレビ放送でもパワーアップフォームは出てくるが、「スーパーハピネスラブリー」はこの映画でしか出てこない。この特別感も良いのだろう。

そして、見た目がかわいいといった回答や、戦う様子がかっこいいという回答があった。女の子たちがかわいく変身をし、かっこよく戦うという設定が多くの子に受け入れられる理由であろう。

Vまとめ

子どもが魅力を感じる話の特徴をまとめていく。

1つめは、「面白いもの」である。面白さは沢山あったが、今回のインタビューで得られた面白さを「状況」「行動」「見た目」「決まり文句」「やりとり」の5つに分けた。好きな理由の「面白いから」というものは、年中男児が5、年中女児が2、年長男児が4、年長女児が10で、年長女児の回答が最も多かった。これは、好きなテレビ番組に妖怪ウォッチと回答した数も同様に年長女児が多かったことから、好きな番組と関係しているのだろうと感じる。

この「面白いもの」は妖怪ウォッチの特徴としてみられた。しかし、インタビュー調査で「ジャイアンリサイタルのシーンが好き。うるさくて面白いから。」というドラえもんに関する回答や、『ウソをついたら』の話が好き。ジェリーがトムに赤い絵の具を付けるところが面白かった。」というトムとジェリーに関する回答得られた。このように、ジャイアンが歌う声や聴いている他のキャラクターが全員嫌がるという状態に対する面白さが感じられるドラえもん、ジェリーがトムにいたずらをし、観る者がトムの反応を予想できるといった面白さを感じるトムとジェリーにも面白いという特徴がある。

次に、「感動」や「特別」といったものである。ポケットモンスターやプリキュアなど映画化されているものは映画が好きという回答があった。映画では、話が完結するまでの所要時間が長くなることで、壮大なスケールでのストーリー展開、強い敵の出現が可能となる。そのため感動する内容となる。また、レジェンド妖怪の召喚シーンや伝説のポケモンなど、普段と違う特別なものがないという回答があった。そして、妖怪ウォッチの花さか爺の話にあるような視覚的に綺麗なシーンでのハッピーエンドが良かったという回答があったが、これも心動かされるシーンとなっており、「感動」「特別」と分類する。

最後は、「かっこよさ」である。今回のインタビューでは戦闘シーンや仮面ライダーの変身シーンがかっこいいという回答が多く得られた。また、プリキュアでは女の子が可愛く変身し、かっこよく戦うという点が好まれている。強がかっこいい見た目、技、声に子どもは魅力を感じている。

インタビュー調査では話の内容だけではなく、キャラクターや音楽の魅力があることが明らかになった。キャラクターの魅力としては、特に女児に好まれる見た目や行動、口癖が「かわいい」もの、戦闘において有利になる「強い」もの、見た目、技、声が「かっこいい」ものがあった。そして、悪役として強がかっこいいものがあることも主役を引き立て

る上で大切であることが分かった。その他にも、足が速い、性格がやさしい、泳ぎが得意など、それぞれのキャラクターに特化した能力や特徴がインタビュー調査で明らかになった。子どもはそのようなキャラクターごとの特徴も魅力と感じている。

そして、音楽の魅力として、「楽しい」「かっこいい」というものがあると感じた。「楽しい」ものとしては、妖怪の召喚ソングとよいかい体操第一が挙げられる。また、「かっこいい」ものとしては、妖怪ウォッチのオープニングテーマがある。子どもはこのような音楽にも魅力を感じていることが分かった。

また、本研究では年齢や性別によって魅力を感じるテレビ番組の特徴もおさえられた。年中児は対象の性別がはっきりしているものを好む。そして、年中児、年長児共に男児にはかっこいいと感じられるものが好まれている。また、年長女児は妖怪ウォッチという回答が多く、話の節々に笑いを誘うようなやりとりや視覚的要素を含んでいるもの、様々なキャラクターが作り出す世界観に魅力を感じていることが分かった。そして、個性のあるキャラクターが沢山出てくるポケットモンスターや妖怪ウォッチはどの学年・性別からも好まれた。その中にはかっこいいものもかわいいものもあり、男女ともに人気があると考えられる。

VI引用文献・引用資料・参考文献一覧

- ・小島明／廣畑一雄／清水正三郎『子どもの中のテレビ』国土社、1983年
- ・渡辺洋子『幼児のテレビ視聴と録画番組・DVDの利用状況：2014年6月「幼児視聴率調査」から』放送研究と調査 第64巻 第10号、2014年
- ・高橋光輝／津堅信之『アニメ学』NTT出版、2011年
- ・東映アニメーション『映画ハピネスチャージプリキュア！人形の国のバレリーナ』株式会社講談社、2014年
- ・村上孝雄編集『妖怪ウォッチともだちうきうきペディア わくわくガイドブック』株式会社小学館、2014年
- ・ポケモンすかん／ポケモンだいすきクラブ
<http://www.pokemon.jp/zukan/>
- ・ハピネスチャージプリキュア
<http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/>